社会保障こぼれ話

失業の動向

（アメリカ）

1979年の前半に，失業の動向にやや変化が現われ，失業率は3ポイント低下した。

失業者を男女別にみれば，失業率は女子が男子より若干高く，年齢別では，10代の失業率はきわめて高い。また，白人と黒人およびそれ以外に分ければ，黒人などの失業率はかなり高い。

たとえば，全失業者のうち，白人と黒人などの失業率は白人の4.9％に対して，黒人などはその2倍以上の11.6％であった。また，男子だけの失業率は，白人の3.4％に対して，黒人などが8.3％であった。女子の失業率も，白人の5.0％に対して，黒人などが10.5％で，女子の場合も男子と同様に，黒人などの失業率はかなり高い。

10代の失業率はきわめて高いが，白人と黒人などに分ければ，失業率は白人の13.7％に対して，黒人などが35.2％で，後者は前者の2.6倍である。10代の場合，黒人などの労働力のうち，3分の1をやや上まわる失業が記録されている。

黒人などの失業率は白人よりかなり高いが，このグループの中には，黒人以外にいる。たとえば，キューバ，プエルトリコ，メキシコ系の人びとが含まれている。

Carol Leon,
Emproyment and unemployment in the first half of 1979, Monthly Labour Review, Vol. 102, No, 8, Aug, 1979, pp. 3～7.

（社会保障研究所　平石長久）

編　集　後　記

本号が現われる頃，きびしい残暑も漸く終り，朝夕は涼しくなっているだろう。その頃，かつてのシルクロードに近いタシケント（ソ連）の国際会議に参加しているか，あるいは，ヨーロッパの何処かを1人で気ままにふらついていることであろう。生来の放浪癖から，北欧で紅葉ならぬ素晴しい黄葉をながめているかも知れない。外国では，帰国の日が近づくと，いつも帰るのが嫌になり，帰国しないで，そのまま姿を消し，放浪の生活を続けたくなる。今度の旅も同様であろう。ヨーロッパの何処かで姿を消してしまえば，本号を見ることもないし，次号からの編集に悩まされることもなくなるだろう。今回の旅では，本当に姿を消してやろうかとひそかに考えている。　(平石)

海外社会保障情報　No. 47

昭和54年9月25日発行

編集兼発行人　社会保障研究所

☎100 東京都千代田区霞が関3－3－4
電話03(580)2511

製作所　和光企画出版株式会社03(564)0338